

認知症の情報交換・予防・相談ができるカフェ

オレンジカフェ静岡

9/17 2時～4時

コーヒー・紅茶

ハーフティ

お菓子

各 100 円

毎月第3日曜日

ミニ講話

私たち後期高齢者が生きてきた時代 その2

静岡の戦災孤児と「鐘の鳴る丘」

小島孝子 臨床心理士



♪緑の丘の赤い屋根・♪ 歌が聞こえてくると、子どもたちは皆、ラジオの前に集まりました。戦争から復員し、生き別れた弟を探しながら戦災孤児たちと共同の住まいを創ろうとする、賀々見修三と子どもたちのドラマが始まったのです。施設から脱走して放浪を続ける弟の行方、孤児を金儲けの手段とする悪い大人たちとの闘いなど、ハラハラドキドキして次の日が待ち遠しかったのを覚えている方は多いと思います。数年後、佐田啓二主演の映画もでき、私が通っていた小学校（東京の目黒）では、焼け跡に建てられた映画館を借り切つて、児童

に見せました。あまりにも波乱万丈、胸の痛む話なので、私は本当は見たくなかったのですが。このラジオ放送は菊田一夫の創作でした。しかし、このドラマから実話がうまれたのです。

ラバウルからの帰還兵、品川博は、上野駅で食物を乞う孤児たちに会い、親を失った子どもたちのために働こうと、浜松の孤児収容所（葵園）の無給職員になりました。「鐘の鳴る丘」の放送が始まり、品川は、「鉄格子」などの問題が起きた収容所を出て、自分たちの「家」を造ろうと決心します。昭和二十二年の暮れ、品川は五人の孤児たちを連れて上京し、靴磨きなどで稼いだお金で故郷（赤城山山麓）に小さな家を建てます。けれど運営資金に困り、二十三年七月に放送の主人公、賀々見修平をNHKに訪ねて行きます。そこで「鐘の鳴る丘」はドラマだったことを知るのです。

（2面に続きます）



9月のイベント

上藤美紀代による 声のワークショップ



「声のワークショップ」は、皆様のお声を若々しく保つために役立ちます！毎回基本のエクササイズで行っている腹式呼吸と共鳴発声を普段から心掛けてみてください。また、今回から『肺炎がいやなら、のどを鍛えなさい』（西山耕一郎著・飛鳥新社）の中で紹介されている、のどを鍛えるためのトレーニングも取り入れます。

毎日がお健やかでありますよう…

のども鍛える!?

ヴォイストレーニング

上藤美紀代さん

最後に合唱しましょう

松永好夫さんの指揮と

アコーディオン伴奏

里の秋・旅愁・虫の声

（1面からの続き）
落胆したものの、やがて「自分たちで鐘の鳴る丘の少年の家を実現してみせる」という決意が生まれました。菊田一夫の協力も得て、六年後、本場に「とんがり帽子の赤い屋根」の家を建てることのできたのです。
品川博と最初に行動を共にした孤児の一人が、昭和二十年六月十九日の静岡大空襲で両親を失った齋藤房二（後に改名して品川房二）でした。齋藤は当時十二歳、後に東大病院の内科医になりました。
敗戦の直前、日本全国の都市はアメリカ軍の空爆に会い、静岡市だけでも二十数回の爆撃を受けました。日本中の多くの家が焼失し、大人の死者の数さ

え正確でないこの時代ですが、昭和二十二年の厚生省の一斉調査によれば、十八歳未満の孤児は、十二万三千五百人（沖縄を除く）となっています。都会の地下道は孤児であふれていました。上京した品川たちも、その中で靴を磨いて食べ物を手にいれたのです。

今回は、鐘の鳴る丘、品川博、品川房二について、お話しをさせていただきます。

参考書籍

児玉隆也『この三十年の日本人』新潮社 1975

品川博『光の中を歩む子等』少年の家後援会 1957

『鐘の鳴る丘―少年の家』講談社 1970

石川光太『浮浪児1945―戦争が生んだ子供たち』

新潮社 2014

会場 静岡市葵区城東町 34-14

城東コミュニティプラザ HapiSpo

会場提供

社会福祉法人 静和会

主催 特定非営利活動法人
ヒューマン・ケア支援機構

連絡先 ☎ 090-5620-6070

✉ orange@npo-humancare.jp

※駐車場有ります



バスでお越しの場合

静岡駅北口5,6番線からのすべてのバス

巴町下車 徒歩7~8分